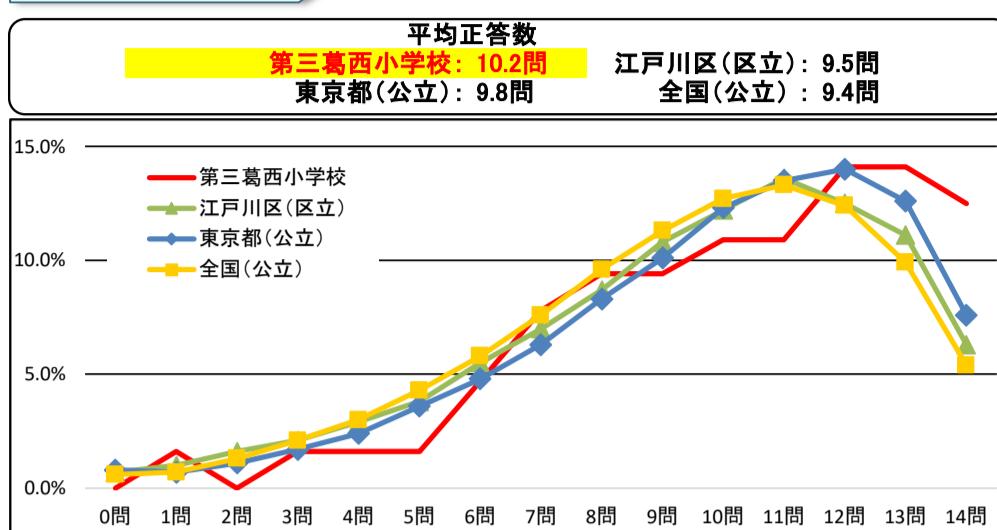


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】第三葛西小学校

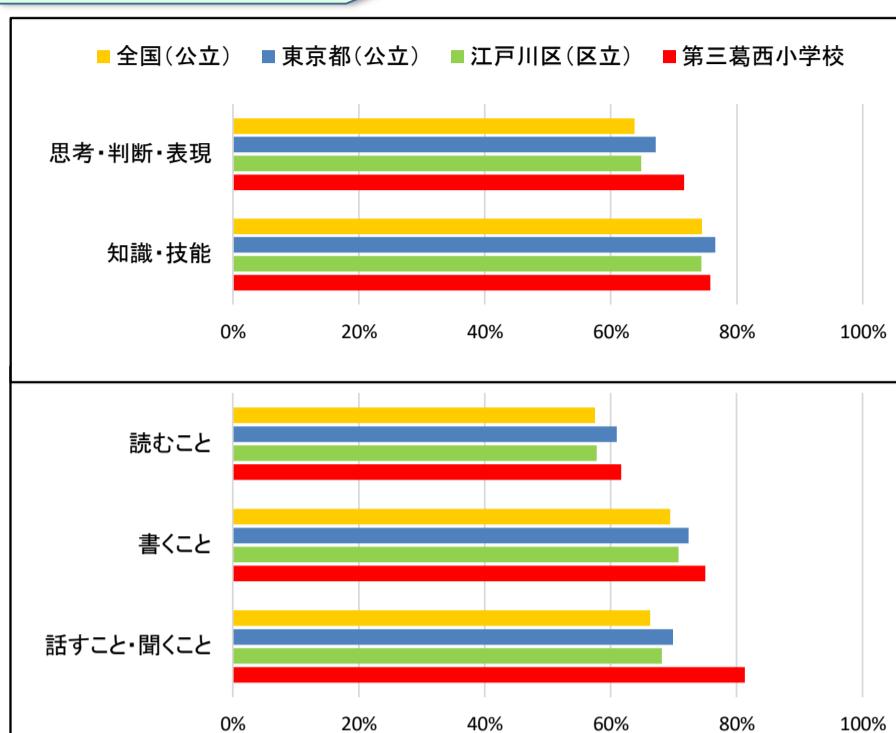
正答数分布



【平均正答率の差】

学校	平均正答率(%)
第三葛西小学校	73%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	3.0

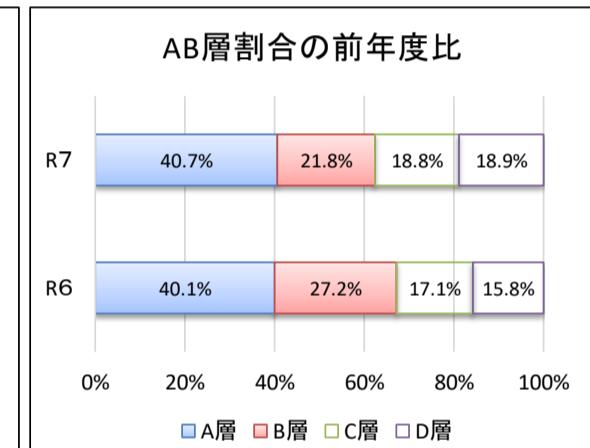
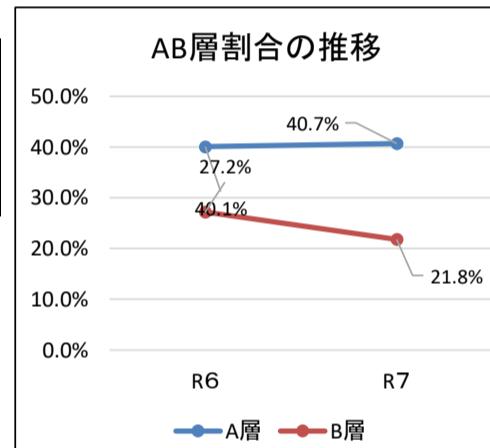
「領域別」の結果



四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	四分位			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
第三葛西小学校	40.7%	21.8%	18.8%	18.9%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》
○平均正答率は、全国平均を上回っているが、国語科に対する関心は、全国平均を下回っている。
○その他、「基本的な生活習慣」、「自己有用感」、「主張的な学び」が全国平均を上回り、「規範意識」、「対話的な学び」については、全国平均を下回っている状況となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

○「規範意識」については、学校と家庭で連携しながら育していくことが望まれる。また、起きる時刻においても、平均を下回っていることから、生活習慣の確立に関しても、働きかけていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
○AB層の割合は62.5%で、昨年度より4.8%減っている。中でも、B層の減少が大きく目立っている。(5.4%減)
○週一度、よむYOMUワークシートに取り組み、読解力の基礎向上を図っている。取組を見直し、思考・判断・表現の向上にもつなげていきたい。

・教員の指導力向上

○文章を論理的に読み取り、表現する力の向上を目指し、教材の工夫、環境の整備、発問の精選等の取組を行う。学年会等で、指導内容や手立てを検討する。
○教員同士の授業参観を日常的に行うよう心掛け、助言し合う。

・基礎学力の保障

○日常的に行っており、「話型を活用し、説明する力を育んでいること」、「スピーチ活動を通して話す内容を整理する力や表現力を高めていること」の取組を今後も継続していく。
○朝読書の時間を確保し、読み取る力や語彙力を身に付け、主体的に学び続けていくための素地を育成する。

・学習習慣の確立

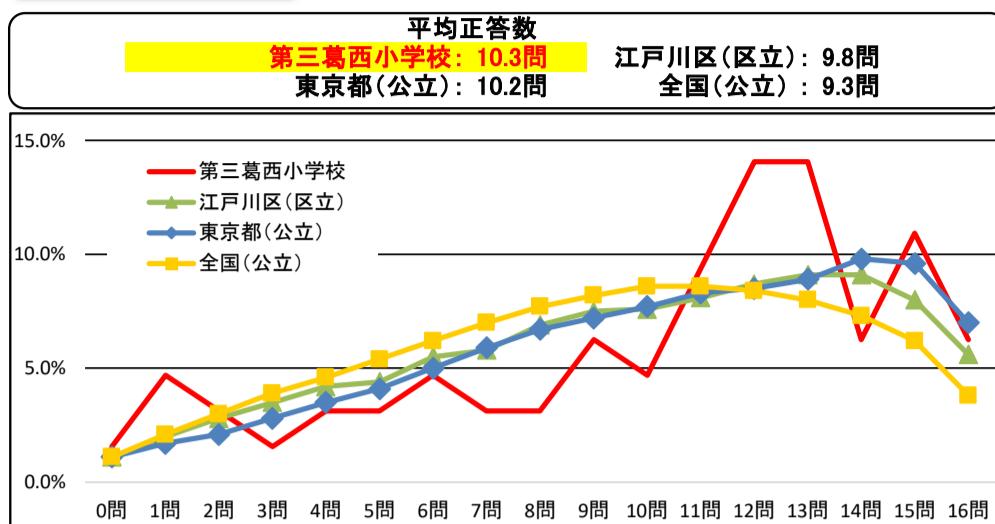
○家庭での学習習慣が身に付くよう、スタディーウィーク等の学校全体での取組を発信し、呼びかけていく。
○学校ホームページ等で日頃の教育活動の様子を発信し、保護者や地域へ理解を促す。

・AB層の育成

○基礎学力の上に、活用力、応用力を身に付けられるよう、問い合わせの立て方や、話合いの仕方などを工夫した授業展開を行う。
○読書科や総合的な学習など、他教科とも関連させて、思考力・表現力を高める指導計画を立てる。

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】第三葛西小学校

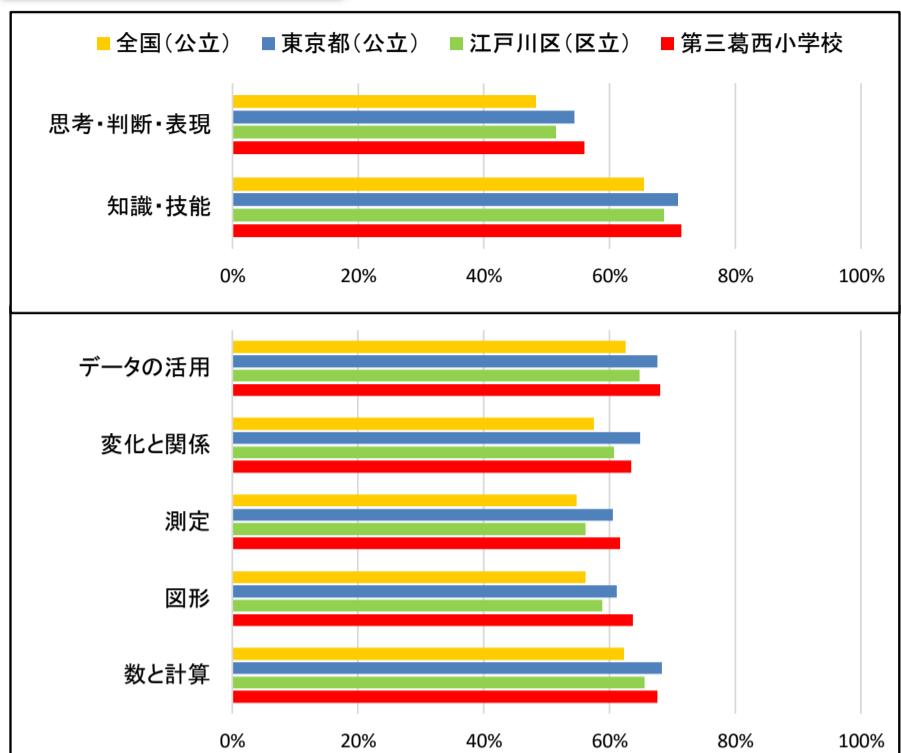
正答数分布



【平均正答率の差】

学校	平均正答率
第三葛西小学校	65%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	1.0

「領域別」の結果

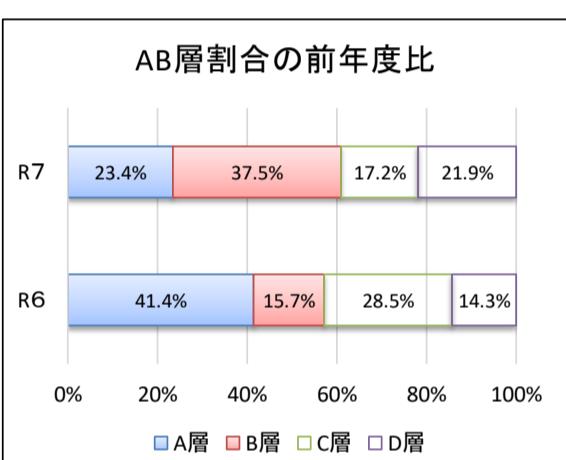
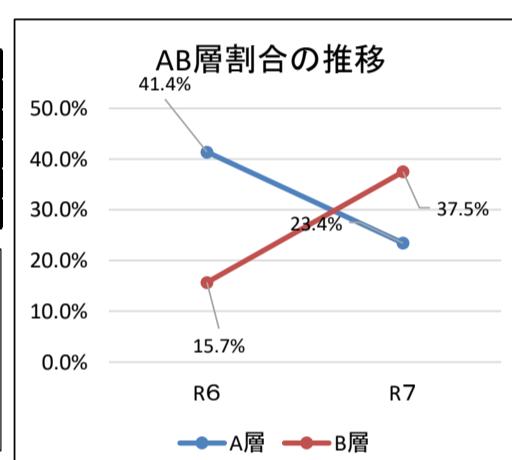


四分位における割合(都全体の四分位による)

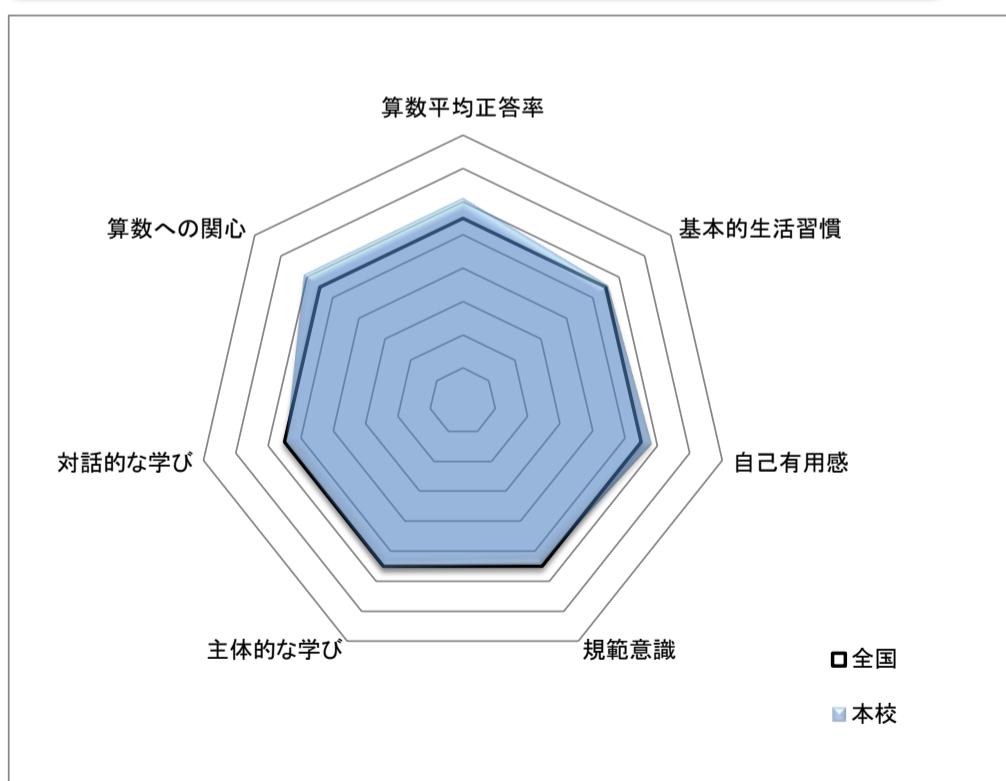
上位 ← → 下位

算数	A層	B層	C層	D層
	14~16問	11~13問	7~10問	0~6問
第三葛西小学校	23.4%	37.5%	17.2%	21.9%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- 平均正答率と算数への関心は、全国平均を上回っている。
- その他、「基本的な生活習慣」、「自己有用感」、「主体的な学び」が全国平均を上回り、「規範意識」、「対話的な学び」については、全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- 「規範意識」については、学校と家庭で連携しながら育していくことが望まれる。また、起きる時刻においても、平均を下回っていることから、生活習慣の確立に関しても、働きかけていく。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
○AB層の割合は60.9%で昨年度より3.8%増えているが、A層の割合は1.8%減っている。B層が21.8%増えていることから、AB層の割合が増えている。

○習熟度別授業の流れを工夫し、児童の実態に応じた学習展開を行っていくために、少人数担当教員や学年での打合わせを行う。

- 教員同士の授業参観を日常的に行うよう心掛け、助言し合う。
- ・基礎学力の保障
○演算決定の根拠として大切な数直線図のかき方を中学年から丁寧に指導し、高学年になったときに、適切に活用できるようにする。

- 授業で扱う問題の質と量、家庭学習との関連等について検討し、学習内容の定着を図る。
- 朝学習の時間を基礎問題に取り組む時間とし、有効活用する。
- 児童の実態を把握し、放課後学習教室への参加を促していく。
- ・学習習慣の確立
○家庭での学習習慣が身に付くよう、スタディーウィーク等の学校全体での取り組みを発信し、呼びかけていく。

・AB層の育成

- 基礎学力の上に、活用力、応用力を身に付けられるように、問題提示の仕方や、話合いの仕方などを工夫した授業展開を行う。
- 習熟度別授業で扱う問題の質と量を吟味し、活用力、応用力を向上させる。